

主筆 牧野富太郎

植物研究雜誌

第四卷 第一號

昭和二年一月三十一日
發行所 東京 津村研究所

○本誌第四卷ノ卷頭ニ所思ヲ述ベ併セテ植物ニ關スル

郷土ノ記事ヲ歡迎スル

牧 野 富 太 郎

此我ガ『植物研究雜誌』ハ津村家ノ厚キ惠ト親友、知友、其他方々ノ懇篤ナル援助トニヨリテ第三卷ハ昨年無事ニ其業ヲ了ヘ今年一月カラハ更ニ手ヲ第四卷ニ着ケ其第一號ヲ無事發行スルコト、ナリ主筆タル私ニ取テドレホド満足ナ事カ分ラヌ位デアル、今年モ亦生來ノ鈍腕ニ鞭ウチ勇ヲ鼓シテ其編輯ノ責任ヲ全フシ一ハ以テ上述恩義アル方々ノ厚意ニ酬イ一ハ以テ聊カ斯學ニ貢獻シタイト期シテ居ル、本誌ヲ愛讀シ下サル諸君モ幸ニ私ガ依然健康デ其勞ニ堪ヘ得ル六十六歳ノ元氣ヲ喜ンデ下サレ又學問ノ爲メニ此重任ヲ全フセントスル微衷ニ同情ヲ賜ヒテ今一層汎ク世間ニ本誌ヲ御吹聴下サレ購讀者増加ニ御盡力アランコトヲ偏ヘニ御願ヒスル

ソレハ本誌ノ永ク生キルカ短ク死ヌカハ購讀者多寡ノ如何ニ因ツテ其生死ガ決セラル、カラデアル私ハ何時マデモ之レガ息災延命ナランコトヲ祈念スル餘リツイ前述べ様ニ厚カマシクモ本誌ヲ他ヘ御推奨アランコトヲ御願ヒシタノデアル、ソシテ今日只今我ガ日本デハ東京植物學會デ發行シツ、アル『植物學雜誌』以外植物専門ノ雜誌トシテハ唯此『植物研究雜誌』ガ一ツアルノミナレバ其間幸ニ夭折ノ厄ヲ免カレテ達者ニ生キナガラヘルコトハ聊カ我ガ學界ノ爲メニ慶賀スベキコトデハナイカト私カニ愚考スル

我ガ此雜誌ハ號ヲ逐ヒ卷ヲ重ネテ植物ニ關スル種々様々ナ記事ヲ掲載シ主トシテ植物知識普及ノ爲メ亦併セテ

薈軒獨語 (其十二)

植物趣味鼓吹ノ爲ニ努力スルノデアルガ、更ニ今年カラハ特ニ植物ニ關シテ我邦諸州郷土ノ事實記事ヲ載セテ見タイト希望スル、幸ニ筆ヲ執ツテ下サル方ガアレバソレヲ本誌上ニ收録スルコトニスル、前卷ニ掲ゲタ前原勘次郎君ノ「いちゐがしノ實カラ製シタ珍食品」並ニ「ほていちくカラ干筍ヲ造ル方法」ノ如キハ即チ其一例ヲ示シタモノデアル、記事サヘ正確ナルモノデアレバ其文章ノ長短巧拙ハ敢テ論ズルマデモナク又其筆者ハ學生デアラウガ相當ノ地位ノ人デアラウガ又肩書ガ有ラウガ無カラウガソナ事ハ一切我等ノ問フ所デハナク老若男女ドンナ御方ノ原稿デモ之レヲ歡迎スル、文章ハ幾ラまづぐテモソナ場合ニハ私ノ方デ何トデモ潤飾ガ出來ルカラ其邊ノ心配ハ無用デアル又其レニ圖畫ナリ寫真ナリガ添ヘラレテアレバ尙更ラ結構至極デアル、斯クシテ隱レタ郷土ノ事實ヲ世ニ顯ハシ以テ斯學ノ參考資料ニ供シタイノデアル、想フニ諸州ノ郷土ニハ實ニマダ澤山ナ種々ノ事實ガ祕メラレテ居ルデアラウ

○薈軒獨語 (其十二)

薈軒 朝比奈泰彦

○臺灣ノ虎斑竹菌

大正十五年十一月下旬、在臺灣屏東ノ友人山口藍君カラ一封ノ小包郵便ガ届イタノデ之ヲ開クト菌體ヲ被レル虎斑竹程ガ十本出タ、諸君モ御承知ノ如ク内地産ノ虎斑竹菌ニ關シテハ理學博士川村清一君ノ研究ガアリ其詳細ナル記事ハ理科大學(東京)紀要第二十三卷第二號ニ獨逸文デ出テ居ルシ又其拔萃ハ植物學雜誌第二百五十號(明治四十年十一月發行)ニ載セテアル、ソレニヨルト川村君ハ此菌ノ爲ニ Miyoshia ト云フ新屬ヲ設定シ Miyoshia fusispora KAWAMURA. ト命名シタ、又同君ニヨルト此菌ハ吾内地ニ於テハ美作、日向ノ二國ニノミ産スル